

モノづくり



モノは「人」



がつくる

城陽が、変わる。

「こりこり」から、何をイメージしますか？ 固いものを削る様子や、力強く進む様子などを思い浮かべる方がほとんどではないでしょうか。

しかし、私たちは、「わがまち城陽」のことを、真っ先に思い浮かべます。

鉄道も高速道路もなかったその昔、京都と奈良の都を結ぶ奈良街道がありました。

京都から五里、奈良から五里と双方の真ん中に位置した交通の要衝の城陽は、悠久

のときを経て、近年、「五里五里の里」と呼ばれるようになりました。

耳を澄ませば聞こえてきませんか。今まさに城陽が大きく変わる

「こりこり」という音が。

新名神高速道路の供用で 城陽は大阪・神戸・奈良・名古屋の結節点に

城陽市を含む京都府南部地域は、京都と滋賀を結ぶ「京滋バイパス」、京都と大阪を結ぶ「第二京阪道路」、京都と奈良を結ぶ「京奈和自動車道」の高速道路網が整備されています。さらに、平成29年4月には新名神高速道路「城陽～八幡京田辺間」が供用開始されました。

また、平成35年度には新名神高速道路「大津～城陽間」、「八幡京田辺～高槻間」の供用が予定されており、新名神高速道路の全線開通に向けて着々と事業が進められています。

さらに、市の東部丘陵地においては、平成29年8月に国土交通省から新名神高速道路と直結する城陽スマートインターチェンジ(仮称)(SIC)の連結が許可されました。これにより、さらなる高速道路利用者の利便性向上や企業立地の促進が期待されます。

これからの城陽市は、これまでのベッドタウンから、新名神高速道路の全線開通等を契機として、「ヒト」や「モノ」、「情報」、「サービス」などが行きかう、交通結節点として日本のハブ都市となりうる可能性を秘めています。

そのような中、城陽市では、企業同士の交流を促進し、企業とまちのさらなる発展を実現するため、「京都城陽カンパニーネットワーク」事業に取り組んでいます。今号では、その取り組みの内容や会議での講演内容をご紹介します。

また、これから変わっていく城陽を牽引していく元気な企業を知っていただくため、現在、企業集積が進む久世荒内・寺田塚本地区周辺及び京都山城白坂テクノパークにすでに立地している企業やこれから立地する企業をご紹介します。

今後ますます発展する城陽市とその発展を支える企業の魅力をお伝えしていきます。



京都・城陽の企業を応援する情報誌
城陽カンパニー [平成30年春号]

ジョーカー

CONTENTS

- 2 城陽が、変わる
- 4 京都城陽カンパニーネットワーク
- 6 京都国道事務所 事務所長 田中哲也
- 7 洛陽技研(株) 社長 田中秀和
- 8 京都エレベータ(株)
- 9 (株)ケイティエフ
- 10 城陽富士工業(株)
- 11 (株)ShinSei
- 12 (株)津島鉄工所
- 13 (株)日興染織
- 14 (株)マリンフレッシュ
- 15 (株)ミル総本社
- 16 市長挨拶・優遇制度

[発行] 城陽市まちづくり活性部 商工観光課
☎ 0774-56-4018
[編集] 城陽商工会議所
☎ 0774-52-6866
[制作協力] ココロ株式会社



京都山城白坂テクノパーク



久世荒内・寺田塚本地区



京都城陽 カンパニーネットワーク

城陽市内企業と産業支援機関や大学、金融機関、行政による、交流促進や産学官連携を通じた新商品開発など、城陽を盛り上げていただくネットワークづくりを目指します。

賑わいがあり、活力ある城陽市を目指し、
企業同士の交流や取り組みを支援します

ハブ都市としての城陽

城陽市は、奈良と京都の2つの古都の中間に位置し、多くの古人が街道を行き交い、文化や交通の要衝として発展してきました。現在は「五里五里の里」として親しまれていま

一方で、新名神高速道路の全線開通に伴い、京阪神と中京圏の2大経済圏を結ぶ国土軸の一翼を担うことになり、「ヒト」「モノ」「情報」「サービス」の流れの、かつてない大きな変化が起ころうとしています。

歴史性に富んだ「五里五里の里」と未来に繋がる「国土軸の都市」が交わる立地特性を生かすことで、日本のハブ都市として新たな交流を生み出すことが可能となります。

市内だけでなく市外からも多くの人々が訪れ、にぎわいと活力を生み出すとともに、市民が緑に包まれながら生き生きと暮らし、人の和の中で次代を担う人材が育まれる「希望あふれる城陽」「誰もが輝いている城陽」の実現を目指しています。

明るく賑わいあるまちに

城陽市の企業は、大半が市街地に点在していますが、上津屋地区の製

造業を中心とした企業団地に加え、久世荒内・寺田塚本地区や京都山城白坂テクノパークで企業立地が進んでいます。また、新名神高速道路の整備にあわせて進めている東部丘陵地長池地区については、今後、府内初となるアウトレットモールの実現が控えています。さらに、大手アウトドアスポーツ用品企業が総合運動公園レクリエーションゾーンの新たな指定管理者となり、親子3世代でライトレジャーを楽しめる施設づくりをスタートさせます。

これまでの城陽はベッドタウンとして発展し、市外へ働きに出るまちでしたが、これからは、訪れて楽しい新しい遊びの空間や新たな学びの場など、城陽新時代にふさわしいまちへと変わろうとしています。このように、今後の大規模プロジェクトの進行を起爆剤に、これまでにならぬほどの多くの交流人口の増加によって未来に向かって大きく躍動する「NEW城陽」に期待が寄せられています。

これらの明るい未来を創り出す源泉は、城陽を盛り上げていただける新規立地企業、市内で操業されている活力ある既存企業の融合による活性化にあると考えます。

京都城陽カンパニーネットワークで 企業とまちのさらなる発展を実現します

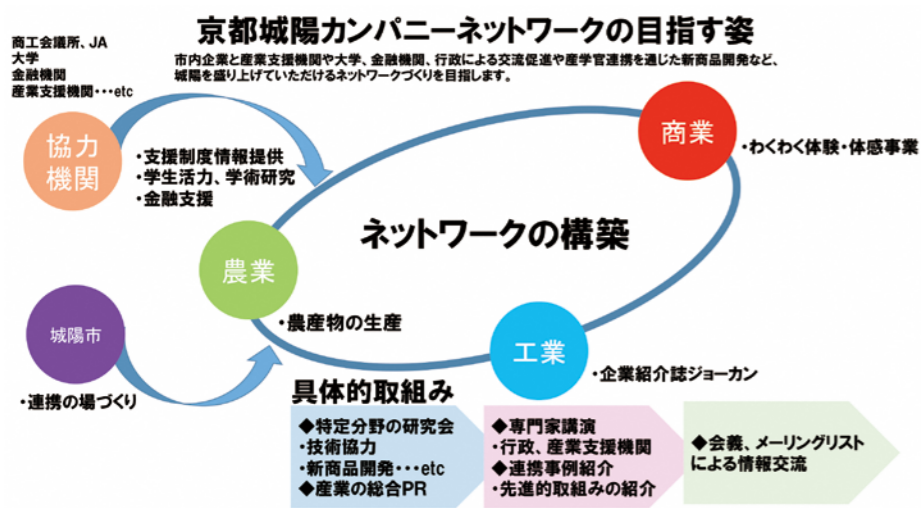
企業を繋いで、成長と発展を

様々な環境が整いつつある城陽市で、今後最も力を入れていくべきことは、新規立地企業や市内で操業されている既存企業同士の交流や連携を促進することです。

そこで、「近隣にある企業なのに、

何をされているのかわらなかつた」という事業者が多い現状を解消するため、行政が触媒となつて、企業同士が繋がる場として、「京都城陽カンパニーネットワーク(通称:ジョーカーネット)」を設立しました。

本会では、参画企業同士の交流、企業間取引、共同開発、企業連携の



商工会議所、JA
大学
金融機関
産業支援機関...etc

協力
機関

農業

工業

城陽市
連携の場づくり

京都城陽カンパニーネットワークの目指す姿

市内企業と産業支援機関や大学、金融機関、行政による交流促進や産学官連携を通じた新商品開発など、城陽を盛り上げていただけるネットワークづくりを目指します。

商業 ・わくわく体験・体感事業

農業 ・農産物の生産

工業 ・企業紹介誌ジョーカー

具体的取組み

- ◆特定分野の研究会
- ◆技術協力
- ◆新商品開発...etc
- ◆産業の総合PR
- ◆専門家講演
- ◆行政、産業支援機関
- ◆連携事例紹介
- ◆先進的取組みの紹介
- ◆会議、メーリングリストによる情報交流

きつかけづくりの場(機会)として、交流会や勉強会などを定期的に実施しています。さらに、金融機関や中小企業支援機関も参画することで、積極的に事業を展開しようとする企業が、自らの強みの強化、弱みの補完・克服をするために必要な最新情報(補助金、雇用施策等)を提供しています。今後さらに城陽を産業界から盛り上げる輪を広げていきます。

京都城陽カンパニーネットワーク参画企業・団体 (五十音順)

【企業】

- ・あきつや食品株式会社
- ・伊賀屋食品工業株式会社
- ・池本車体工業株式会社
- ・泉工業株式会社
- ・株式会社おうすの里
- ・応用電機株式会社
- ・京都エレベータ株式会社
- ・株式会社京都パープルサンガ
- ・農事組合法人京都養鶏生産組合
- ・サントリープロダクツ株式会社宇治川工場
- ・公益財団法人城陽市民余暇活動センター
- ・城陽酒造株式会社

- ・城陽富士工業株式会社
- ・株式会社 ShinSei
- ・公益財団法人青少年野外活動総合センター
- ・星和電機株式会社
- ・株式会社社若園芸
- ・株式会社ピーマックス
- ・株式会社藤清
- ・株式会社芳香園
- ・株式会社孫右エ門
- ・株式会社マリンフレッシュ
- ・株式会社ミズホ
- ・株式会社ミル総本社
- ・株式会社山岡製作所

【大学】

- ・京都文教大学

【金融機関】

- ・株式会社京都銀行
- ・京都中央信用金庫
- ・京都信用金庫
- ・株式会社南都銀行

【支援団体】

- ・公益財団法人京都産業 21
- ・城陽商工会議所
- ・城陽市

(平成 30 年 3 月 31 日現在)



新名神高速道路、国道24号拡幅、 長池交差点歩道整備など、活力ある 京都・城陽のネットワークづくりを



国土交通省近畿地方整備局
京都国道事務所

事務所長 田中 哲也

ら横断歩道を渡って、市立富野小学校へ通う子どもたちの通学路になっています。長年、歩道が未整備だったため、児童の安全が確保されない状態が続いていました。

京都府は、道路整備率が下位

京都府の道路整備率は、約63・5%の全国41位で、全国平均の約72・2%を大きく下回っています。

京都市内ではほぼ全域で慢性的に渋滞が発生し、京都市と滋賀県を結ぶ国道1号は交通量が多く、京都市東部の広域幹線道路が不十分です。京都市南部は主要幹線道路が国道24号しかなく、それを軸にした道路網も十分ではありません。新名神高速道路を活かし、快適な道路利用を実現するためにも、新たな幹線道路やバイパス道路などの充実に努めてまいります。

城陽市において、新名神高速道路の城陽JCT・ICが平成29年4月30日に開通するなど、多くのインフラ整備が進んでおります。京都城陽カンパニーネットワークに参加されている企業の皆さまにとっても、城陽や京都の交通事情の現状と将来について知っていただくことは、とても重要であると考えています。概要ではございますが、その一部をご説明いたします。

国道24号4車線化の拡幅事業

新名神高速道路は、城陽JCT・ICから東進して大津JCT(仮称)に接続し、城陽スマートインターチェンジ(仮称)、宇治田原IC(仮

称)が開設される予定です。一般国道24号の「大畔交差点」から「城陽新池交差点」までの区間は、新名神高速道路は高架橋となっており、一般国道24号は、両脇の地上部に片側2車線の道路を整備し、歩道も含まれた拡幅事業を進めています。具体的な工事に着工する前に、測量調査を進めており、埋蔵文化財の調査や、工事用進入路の設置も行っています。さらに国道24号から見える鴻池運輸の隣りには、橋脚の一部が完成し、新名神高速道路の様子がイメージできるかと思えます。

国道24号長池地区歩道整備

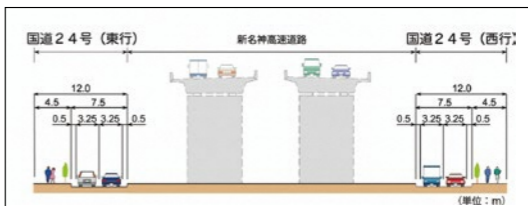
国道24号の長池交差点は、長池か



NEXCO西日本提供



新名神高速道路と国道24号の概略図(左)と標準断面図(下)



写真の中央を通るのが国道24号で、ここに新名神高速道路が通り、両脇に国道24号が整備される。奥が城陽JCT・ICに

京都市陽カンパニーネットワーク会議 講演②

仕事してもらえらると思わず、 機会をチャンスととらえて 企業連携すれば、大きな収穫になる



洛陽技研株式会社
代表取締役社長 田中 秀和

「お茶の京都」の取り組みのひとつとして、久御山町から「産学官連携で『黄金の茶室』が作れないか」と久御山町内の十数社の企業に打診されたことが始まりでした。

仕事してもらえらると思わず、

さて、私が最初に感じたことですが、

が、自社も含めて、集まってきた企業の皆さんは「仕事してもらえらるのでは」と期待するんですね。でも、それは考えないほうがいいです。「仕事にならない。タダ働きをさせられている」と思ってしまうと、取り組む姿勢がいい加減になり、欠席することも増えてしまいます。

そこで私も、何かメリットがないか考えたのですが、自社も含めて、中小企業は社内に開発部がないこと

が多いし、開発の機会も少ないのが現実です。それならば、これをチャンスと捉えて取り組もうと思つたわけです。当社の社員も、最初は仕事以外に面倒なことをやらされると思つていたようですが、未知との遭遇への挑戦が楽しかったようで、休日返上して取り組む者まで出てきました。これは大きな収穫でした。

共通の悩みの解決のヒントも

皆さんと会議をするときは、全員

さんが積極的に意見を述べるようになります。

話せるようになるので、注意しなければならぬのが、顔見知りの方がいらつしやったり、長年操業されている企業の方々、昔話をしがちになることです。少しぐらいならいいんですが、会議が脱線して、本題になかなか戻らなかつたり、話を知って

いる方々の身内話になってしまったりますので、この点には注意したほうがいいと思います。

私たちが、黄金の茶室の制作に関する話ばかりしていたわけではあり

ません。それぞれの企業が、困つて



いることについて話したこともあり

ました。会社は違つても、共通する

悩みや問題はあります。

特に「過重労働」は、どこも頭の

痛い問題だつたようで、各社の取

組み内容を聞いたときには、とても

参考になりました。技術的なことは

かり求めがちですが、労務や社員教

育などで学ばせてもらうことも多く、

意外なメリットも感じました。

同じ立場でのものづくりは貴重

最初に名刺交換をしますが、会議

に出席しても話す機会が少ないと、

名前が分からないこともあったので、

半年に一度、名刺交換を兼ねて親睦

会を行いました。これは人間関係を

活発にするので、おすすめですね。

仕事では、発注先と外注先の関係

でものづくりを行います。黄金の

茶室づくりのように、フラットな立

場で新しいものを生み出す機会、

なかなかありません。ジョーカー

ネットワークの皆さんともいろんなこと

で、ぜひ一緒にやりたいと考えています。

京都南部から様々なものを生み出

していきましょう。



産学官連携で製作された黄金の茶室



①無人運転で2倍の生産が可能なターレットパンチプレス ②数多く用意されたプレスの金型 ③第2工場に導入した最新ターレットパンチとレーザーの複合加工機
④熟練職人の技術で高品質を実現 ⑤切断面が美しいクリーンカットができるレーザー加工機 ⑥組立や製品チェックは技術者の技と経験で行う

国内で稼動するエレベーター・エスカレーターは60万台。その製造・保守点検の90%以上を5大メーカーが行っている。そのため、新設、修理、保守点検のコスト面で競争原理は働きにくく、新規参入は困難である。

エレベーター業界に新風を吹かせた

エレベーターメーカーに勤めていた岩島伸二さんは、7人の仲間と共に独立し、昭和58年12月に京都エレベーターを創業した。しかし、歩む先は茨の道だった。メーカーが部品を売ってくれず、修理や保守点検ができない。そこで全国の独立系保守業者が協力して、独占禁止法違反で訴訟を起こした。裁判は8年間続き、平成5年7月に勝訴が確定。ところが部品発注から納品まで3カ月かかり、高額な料金を請求されることが起きた。これに公正取引委員会が「勧告」を出し、事態はようやく改善されることになった。

自社エレベーターの製作を開始

「自分たちのプログラムをつくらう」岩島社長は決断する。部品供給が困難な頃から部品の自作を行っていたので、独自のプログラムを完成させ、リレー制御やマイコン制御を行い、エレベーターを動かすことに取り組んだ。これによりメーカーに振り回されることなく、低価格で修理や保守点検が

人材育成と設備投資に注力

抜き、曲げ、溶接などの加工で一枚の鉄板が製品になる。自動化が進み、マシンが多く作業を行うが、職人の技と経験があるからこそ、ケイティエフにしか造れないものができる。そんな考えのもと、人材育成と設備投資にもっとも力を入れている。

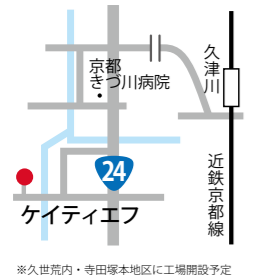
また、一職人に技術が集中するのではなく、経験やテクニクを共有できるように継承に努めることで、クライアントの多様な要求を実現させている。工作機械や設備が2世代空くと、技術も遅れ、操作も困難になるので、常

さらなる要望に応える新工場を

現在、本社を含めて、城陽市内に3カ所の工場があるが、久世荒内・寺田塚本地区に1400坪の用地を取得し、新工場の建設を予定している。現在の



株式会社ケイティエフ
[創業] 平成4年
[従業員数] 48名
[資本金] 3,000万円
[事業内容] 各種精密板金・製缶加工等
レーザー加工、部品等製作・組立
[本社] 城陽市久世八丁60番地の1
TEL 0774-56-0039



加工ごとに必ず確認して、高品質な製品を造り出している



仕上げ加工を行う女性の職人。丁寧な仕事ぶりが大変好評だそうです



クライアントの要望を現場に反映して製品づくりに勤しむ専務の奥田孝太さん



①②③全メーカーのエレベーターのメンテナンスが可能で、低料金を実現するために3つのコースを用意している。現在、約1700機のエレベーターを担当している
④工場や大学、病院など新築時のオリジナルエレベーターの開発、製造、設置もできる ⑤⑥⑦先輩から後輩へと技術は受け継がれ、経験を共有するための勉強会も行う

国内で稼動するエレベーター・エスカレーターは60万台。その製造・保守点検の90%以上を5大メーカーが行っている。そのため、新設、修理、保守点検のコスト面で競争原理は働きにくく、新規参入は困難である。

エレベーター業界に新風を吹かせた

エレベーターメーカーに勤めていた岩島伸二さんは、7人の仲間と共に独立し、昭和58年12月に京都エレベーターを創業した。しかし、歩む先は茨の道だった。メーカーが部品を売ってくれず、修理や保守点検ができない。そこで全国の独立系保守業者が協力して、独占禁止法違反で訴訟を起こした。裁判は8年間続き、平成5年7月に勝訴が確定。ところが部品発注から納品まで3カ月かかり、高額な料金を請求されることが起きた。これに公正取引委員会が「勧告」を出し、事態はようやく改善されることになった。

自社エレベーターの製作を開始

「自分たちのプログラムをつくらう」岩島社長は決断する。部品供給が困難な頃から部品の自作を行っていたので、独自のプログラムを完成させ、リレー制御やマイコン制御を行い、エレベーターを動かすことに取り組んだ。これによりメーカーに振り回されることなく、低価格で修理や保守点検が

実験タワー併設の開発・製造の拠点を開設

独自の制御プログラムのエレベーターが私たちの笑顔と安全安心を運んでくれる

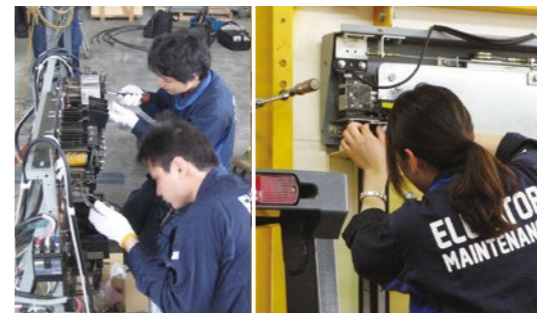
「安全安心と低コストを追求するのはお客様のため」と語る田中陽一社長



京都エレベーター株式会社
[創業] 昭和58年12月
[従業員数] 57名
[資本金] 1,000万円
[事業内容] エレベーター、エスカレーター、小荷物専用昇降機の保守点検、修理、販売、検査、設計、施工。
[本社] 京都市下京区岩上通高辻下る吉文字町457番地
TEL 075-822-0420



※久世荒内・寺田塚本地区に工場開設予定



故障事例も報告して共有し、同様のトラブルが発生しないように事前対応に心がけ、トレーニングや研修にも活かされている。メンテナンスでは女性スタッフも活躍する



「安全安心と低コストを追求するのはお客様のため」と語る田中陽一社長

城陽市の久世荒内・寺田塚本地区に製造と研究開発を集約させた、京都エレベーターの新たな拠点が、平成30年10月に完成の予定だ。エレベーターの実験タワーも併設され、トレーニングや研修にも活用。24時間365日、即時対応できる体制が、さらに強化される。京都エレベーターは、私たちの笑顔と一緒に、安全安心を運んでくれる。



①②超精密金型も一般的なマシニングセンターでつくる。「なかなか信じてもらえませんが」と芦田社長。③自社製品第1号「Steam REVO」。蒸気からドレインだけを排出する自動弁で、流体力学に基づく可動部ゼロの革新的構造が、品質と寿命を飛躍的に高めた。④⑤⑥ShinSeiでは多くの女性エンジニアが活躍する。⑦様々な要望に応える開発部門



①②最長6mの製品を加工製造できる。③様々な加工に対応できるドリル。④⑤⑥長尺加工で難しいのが歪取りの作業。長年の経験を積んだ職人が、ひとつずつ微調整しながら製品を仕上げる。⑦長尺、超高精度に特化し、全国で知られるように様々な取り組みを行うことで新規開拓を成功させた社長の江森正和さん

展示会、勉強会、製品カタログ、精密加工ニーズでPR 自社の強みである「長尺」「超高精度」に 特化することで、社員も会社も成長する

昭和55年4月、3人の職人が部品加工会社を創業し、昭和59年に江森正氏が代表取締役として城陽富士工業株式会社を設立させた。

バラバラの仕事が、社員を疲弊

江森社長の長男の正和氏は、職人に混ざり、一技術者として腕を磨いた。機械加工の技術と仕事に対する情熱は誰にも負けず、社長をはじめ周囲の信頼を得るようになった。取引先と工場を往き来する充実した毎日を通し、大手メーカーとの新規取引も開拓し、正和氏も会社と共に成長していった。大きな転機が訪れたのが、リーマン・ショックだ。発注が止まり、仕事がなくなった。依頼があっても価格は暴落。それでも会社のために、どんな仕事も断らなかつた。ある時、黙々と働く社員の姿を見て、驚いた。大きな部品の次に小さな製品を仕上げる。バラバラの仕事が、社員を疲弊させていたのだ。

強みを明確にし、展示会で勉強会

自社の強みは何かを徹底的に考えた。答えは「長尺」と「超高精度」だった。長い部品は歪みができ、それを限りなく平らにするのは困難だったが、城陽富士工業の職人はそれができた。その製品にミクロン単位で穴を空けたり、溝を彫ったりする加工も得意だった。「この二つに特化した仕事をしよう」

そう決めて、他の仕事を断った。新規開拓で、関東の展示会に出ることにした。手ぶらでは誰の目にも止まらないので、自社で製造できる「金属プレート部品のカタログ」を作った。寸法や素材ごとの価格も掲載して、話題になった。さらに「設計者のための精密加工ハンドブック」も作り、これも無料で配布した。

展示会の後、精密加工の勉強会を自社で開催し、名刺交換した全員に案内を送った。さらに毎月1回精密加工技術ニュースを発行し、メールで配信した。またホームページにも力を入れ、「長尺」「超高精度」で検索すると城陽富士工業のサイトが一番にヒットする。新規開拓を始めて3年で、新規顧客の売上が全体の6割を占めるまでになった。そして平成26年8月、正和氏が代表取締役社長に就任した。

長尺と超高精度で一番を目指す

「長尺で超高精度なものを専門に扱うから、この分野での経験やスキルは



城陽富士工業株式会社
[創業] 昭和55年
[従業員数] 27名
[資本金] 1,350万円
[事業内容] 自動車、航空機、半導体、工作機械、医療、食品関連の機械装置などを担う長尺物部品や超高精度な部品加工製造
[本社]
城陽市平川中道表71番地2
TEL 0774-53-8921



長尺加工に特化することでセッティングなどにかかる時間やストレスも軽減した

工場内には長尺で超高精度の製品ばかり並び、特化した成果が伺える



自社で製造できる金属プレート部品のカタログには、サイズや金額も掲載したことで注目が集まった

蓄積され、できることも増えていく。結果として社員の負担も減って、働きやすい会社になると思います。長尺で超高精度なら城陽富士工業が一番と言ってもらえるまで、努力を重ねていきます」と語る江森正和社長に、全国から取引や要望の声が寄せられている。

「ものづくりの姿勢」と「基礎技術」で社会を笑顔に 城陽からオンラインワンなものを創り出し 本物を築き上げる企業を目指す

「世の中にないものが、創り出されるアメリカを、どうしても自分の目で確かめたかった」と笑顔で語る、株式会社 ShinSei の芦田竜太郎社長。世界の最先端をリードするアメリカへの想いが抑えきれず、大手半導体装置メーカーを辞め、家族を残して単身で渡米。数年は帰らないつもりだったが、途中で資金が尽き、帰国を余儀なくされた。

情熱をカタチにするために起業

短期間だったが多く刺激を受けて、ものづくりへの思いは高ぶるばかり。自分の可能性も確かめたくて平成16年2月に、ShinSei を創業した。大手半導体装置メーカーで教わった「ものづくりの姿勢」と「基礎技術」を活かし、超精密金型部品の製作を始める。創業当初は暇な時もあったが、芦田社長の金型部品はすぐに話題になった。肉眼では染みにしか見えない0.1〜0.3ミリの点を、電子顕微鏡で拡大すると複雑な凹凸のある3次元の形状になっている。この超精密部品が、芦田社長の代わりに営業をしてくれて取引先を呼び込み、創業2年目にはパナソニックとの取引が始まった。

人材も仕事も集まり、城陽に移転

集まったのは仕事だけではなく、芦田社長の技術と、ものづくりに対す



株式会社 ShinSei
[創業] 平成16年2月
[従業員数] 76名
[資本金] 500万円
[事業内容]
医療・電化関連の開発・試作、プラスチック金型の設計・製作販売、射出成形加工販売
[本社]
城陽市平川西六反40-1
TEL 0774-56-6780



城陽からオンラインワンを目指して

現在、ShinSeiでは、大学や企業から依頼を受け、様々な研究開発に取り組んでいる。フランス、イタリア、中国、ベトナムの研究者が在籍し、高分子、材料、IT、医療などを研究するドクターたちが、豊富なアイデアでスピーディに問題解決に取り組み、期待以上の結果を出しているようだ。またこれが自社製品の開発にも活かされ、この春から「手術用心拍再現装置」や「レーザー分析装置」の製造販売が決まっている。その他にも、多くの企画が進行中だとか。

「実は新たな取り組みで、地域貢献を



経験の積み重ねによる熟練の技もShinSeiの大切な力になっている

どんな案件でも丁寧に正確な仕事を行う。そんな姿勢が信頼を生み出す

トップレベルの企業や大学が集まる京都で世にないものをつくりたいと芦田社長

考えています。私たちの分子レベルの解析技術を使えば、サツマイモが水分や養分を欲するタイミングや量が分かるんです。農家の方がこの情報を活かした栽培を行えば、新たな特産物ができるかもしれません」と芦田社長。城陽からオンラインワンが生まれ、みんなが笑顔になる。ShinSeiのものづくりにかける想いと情熱で実現させるそのときが、今から楽しみだ。



①②③1シーズン400~500のデザインが創られる ④東京・目黒のショールーム ⑤これまで制作した約1万2000柄のデザインを管理している ⑥色を再現するため厳しい調色を行う ⑦マス見本制作で実際の生地にプリントする ⑧1色ごとに色を重ねて、美しく高度なプリント服地を生み出すオートスクリーン捺染機

その評価は徐々に広まり、婦人服のトップブランドとの取引も始まって、

精一杯行った。すると「細かなニュアンスがダイレクトに伝わり、思い描いた以上の服地ができた」と本格的に取引を望むレベルが出てきたのだ。

婦人服地の製造は分業制で、テキスタイルコンバーターが、図案や染工場に依頼して行うのが一般的だ。日興染織もこの流れで仕事を請けてきたが、社内デザイナーからプリントまで一貫して行い、ブランドと直接取引するメーカーになるために、平成11年1月の新工場開設を機に大きく舵を切った。当時、専務の安田健一氏を先頭に婦人服ブランドを訪問するが「今までの取引があるから」と断られてばかり。さらにテキスタイルコンバーターからの発注は激減し、捺染機が止まる日も出てきた。だが、チャンスをつかむところもあり、自分たちでできることを精一杯行った。すると「細かなニュアンスがダイレクトに伝わり、思い描いた以上の服地ができた」と本格的に取引を望むレベルが出てきたのだ。

常々新たな挑戦の一步を

安田社長が訪れたのは、紳士服ブランドやスポーツメーカー。高級婦人服地だけを手掛けてきた日興染織にとって改革だった。年に数件程度の新規開拓は、年間50社を超えた。日興染織の技術力と品質の高さは、行く先々で歓迎され、新規取引も急増していった。

「これからも、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

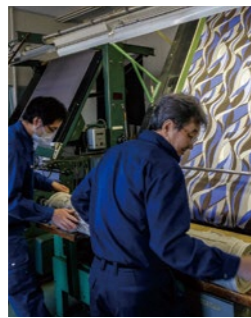
「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

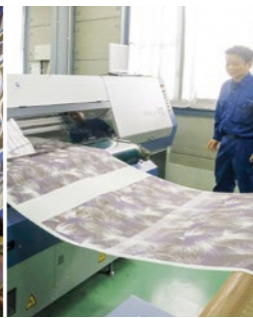
「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。



株式会社 日興染織
[創業] 昭和42年10月
[従業員数] 46名
[資本金] 5,000万円
[事業内容] プリント服地の企画・製造・販売
[本社] 城陽市久世荒内113
TEL 0774-54-1100



最終仕上げでは、必ず職人の目で確認することで高い品質を維持している



小ロット多品種に対応するインクジェットプリンターも早くから導入



新たな挑戦を続けることで会社を成長させてきた社長の安田健一さん

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。

「これからの、あらゆる染色加工のニーズにこたえていきます。さらに今後は、消費者と取引するB to Cも視野に入れた展開を進め、日本のアパレル業界に常に新風を吹き込んでいきたいと考えています」と安田社長は語る。



①②展示会のブースの様子。来場者が足を止めて、技術力を知ってもらうために、バイクから製作 ③④⑤製作切削、精密板金加工は高い評価と信頼を得ており、多くの企業が信頼をよせている



⑥歩行器たあ〜くん。パイプ曲げ、レーザー加工、溶接など鉄工所の技術で製作。使う人の思いを形にした一台である

「使う人の思い」と「遊び心」を形にした製品づくりを

「使う人の思い」と「遊び心」を形にした製品づくりを

「使う人の思い」と「遊び心」を形にした製品づくりを

「使う人の思い」と「遊び心」を形にした製品づくりを

「使う人の思い」と「遊び心」を形にした製品づくりを

「使う人の思い」と「遊び心」を形にした製品づくりを

「使う人の思い」と「遊び心」を形にした製品づくりを

「使う人の思い」と「遊び心」を形にした製品づくりを

「使う人の思い」と「遊び心」を形にした製品づくりを

「使う人の思い」と「遊び心」を形にした製品づくりを

「使う人の思い」と「遊び心」を形にした製品づくりを

「使う人の思い」と「遊び心」を形にした製品づくりを

「使う人の思い」と「遊び心」を形にした製品づくりを

「使う人の思い」と「遊び心」を形にした製品づくりを



株式会社津島鉄工所
[創業] 昭和44年10月
[従業員数] 30名
[資本金] 1,000万円
[事業内容] 製作切削・精密板金・製缶・試作加工
[本社] 京都市南区唐橋花園町15
[城陽工場] 城陽市久世荒内177-11
TEL 0774-52-3397



製缶加工・切削加工・精密板金加工と複合した製造工程を社内加工することで、コスト・品質・納期に対して顧客満足アップに努めている。また社員一人ひとりが技術を継承し、依頼されたこと、新しいことに対して常に挑戦し続けている



製缶加工・切削加工・精密板金加工と複合した製造工程を社内加工することで、コスト・品質・納期に対して顧客満足アップに努めている。また社員一人ひとりが技術を継承し、依頼されたこと、新しいことに対して常に挑戦し続けている



製缶加工・切削加工・精密板金加工と複合した製造工程を社内加工することで、コスト・品質・納期に対して顧客満足アップに努めている。また社員一人ひとりが技術を継承し、依頼されたこと、新しいことに対して常に挑戦し続けている

「使う人の思い」と「遊び心」を形にした製品づくりを

「使う人の思い」と「遊び心」を形にした製品づくりを



①自社製造を決めた乳酸菌ドリンクの製造工場 ②③新工場で稼動するフィットライフコーヒーの製造ライン、製造に携わる人数は変わらず、生産性は2倍にアップした ④京都市伏見区の新工場は酒蔵の外観をイメージ ⑤ミル総本社を代表する商品。手前からフィットライフコーヒー、あかもくのおみそ汁、シェイプライフ青汁、アルビンバイオサム



①冷凍マグロを解凍し、色や品質をチェック ②骨や筋、品質の満たない部位などを手作業で切り除いていく ③マグロをカッターで細かくし、味付けや食感を調整 ④衛生面に配慮し、協力して短時間で作業を行う ⑤マグロのたたきに切り落としをセットにした商品づくり。生鮮食品なので手際よく作業を行うのも重要

マグロのたたきの製造拠点が白坂テクノパークに誕生 マグロの加工食品を製造販売する マリンフレッシュ 関西工場が城陽に設立

水産会社に勤めていた現在の社長の木村宗吾氏とその仲間のメンバーが、千葉県流山市にマグロの加工食品を販売する商社「マリンフレッシュ」を平成15年10月に創業した。

その翌年には、廃業した水産会社の工場を居抜きで借りて、機械などを全面的に入れ替え、自社で加工できる体制を整えて、水産加工メーカーとして歩み始めた。

マグロのたたきに特化したメーカー

仕入れたマグロを切って売るだけであれば、同業他社は多い。しかし、「マグロのたたき」であれば、加工や味付けで独自の工夫ができ、お客様の要望に合わせた商品づくりができる。

マリンフレッシュの細やかな対応と美味しいうま味のたたきは、回転寿司チェーン店やスーパーマーケットなど様々な企業から支持された。

業績が拡大し、取引先が増えるなか、美味しさだけでなく、品質や安全面のハードルは上がる。自信を持って商品を提供し、企業のバイヤーに「ぜひ取り引きしたい」と思ってもらうために工場の全面見直しを決定した。

西日本進出で関西工場を設立

平成23年、埼玉県川越市に本社工場が完成。さらに中部、関西エリアの製造を担っていた名古屋工場を閉鎖し、

中国・四国地方を商圏に考えて、西日本全域をカバーする工場を設立することになった。

利便性の高い交通網と将来性のある立地を探していたところ、求めた条件をすべて満たし、清洲で豊富な地下水が利用できる城陽市の白坂テクノパークに工場の設立が決まり、平成29年4月、マリンフレッシュ関西工場の稼働が始まった。

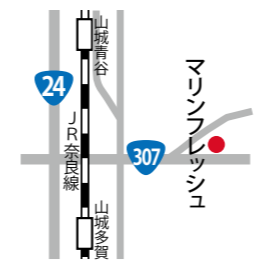
企業とのコラボに期待が高まる

仕入れたマグロは、産地、部位、サイズが異なる。安くて美味しいマグロのたたきを作るために、個々のマグロの状態を見極めて、味付けや加工を行うには、丁寧な仕事と技術、経験が必要。

関西工場には、加工したマグロのたたきを棒状にして凍らせる「トンネルフリーザー」が導入されている。最先端の高性能な機械で、本社工場と変わらぬ設備が整っており、関西工場を拠点に西日本への展開の意気込みが感じられる。



株式会社マリンフレッシュ
[創業]平成15年10月
[従業員数]100名
[資本金]1,500万円
[事業内容]水産物の加工・販売。水産物の輸入・販売
[本社]川越市増形687-1 [関西工場] 城陽市市辺茶うす山2-37 TEL 0774-74-8020



加工が終わるとすべての機械を分解して、徹底した洗浄と殺菌を行う。安全面を担う重要な仕事だ



工場内の汚れや菌の状態を検査して、徹底した衛生管理が行われている



現在、関西工場を統括する副社長の三満昭夫さん

要だ。現在、埼玉の本社から多くの社員が、応援と指導に来ているが、城陽など地元採用された社員やパートの方が主力になるように、技術の習得に努めているようだ。

新たな雇用を生むだけでなく、様々な企業とのコラボレーションにも多くの期待が寄せられている。

ホッと一息つける幸せな時間と健康をサポート 心を込めた一杯のコーヒーたちが 健康と幸せ、そして笑顔をお届けする

食後の血糖値の上昇をおだやかにする「フィットライフコーヒー」で知られる株式会社ミル総本社。創業41年を数え、特定保健用食品(トクホ)などを製造販売する健康生活応援企業だ。

健康の幸せを実感し、独立を決意

創業者の齋藤修社長は、若い頃に大手カーディーラーに勤める営業マンだったが、体調を崩して入院を繰り返して、健康の有難さを実感。そこで健康関連の仕事をしたいと会社を辞めて独立し、入院中に飲んでいた乳酸菌ドリンクを販売する会社を立ち上げた。

商売は簡単ではなく、在庫の山が残る日が続く。しかし、モノやお金がなくとも行える「無財の七施」の教えを実践し、できることは何でも実行した。すると、齋藤社長を信頼した人が商品を扱ってくれたり、取引先を紹介してくれたりして、商いが軌道に乗り始めた。

自社製造を始め、トクホ商品を開発

ところが、乳酸菌ドリンクの会社の廃業が決定。飲み続けてくださるお客様のために商品がなくすわけにはいかない。その会社の工場長を迎え、自社で製造販売することを決意した。工場長を中心に研究員やスタッフが一丸となって開発を進め、自社の乳酸菌ドリンクが完成。さらに良いものを目指そうと努力を重ね、特定保健用食

品の取得も成し遂げた。このノウハウを活かし、新たなトクホ商品開発に着手することになる。

「健康と幸せをお届けする」の経営理念を具現化し、幸せを突き詰めた商品を作りたかった。日々の暮らしの中でホッと一息ついてコーヒーを飲むひとときが、今日も明日も続くのは、素晴らしいこと。だから、そんな幸せな時間と健康をサポートするコーヒーを作ろうと思いました」と齋藤社長は語る。

健康と幸せを第一に考えた商品

3年の歳月をかけて平成11年に、食物繊維(難消化性デキストリン)をブレンドしたフィットライフコーヒーが完成。食後の血糖値の上昇をおだやかにする効果はもちろん、コーヒーそのものの美味しさ、社長やスタッフの思いが伝わり、多くの方々へ支持された。平成28年には新しい製造拠点となる京都工場が完成するほど、社の主力商品へと成長している。さらに、今後の発展を見越して、城陽市の久世荒内・



株式会社ミル総本社
[創業]昭和52年11月
[従業員数]65名
[資本金]3,000万円
[事業内容] 特定保健用食品などの製造・通信販売
[本社] 京都市伏見区深草泓ノ壺町29-8 TEL 075-645-2440



⑥試供品セットを心を込めて手作業で行う。⑦製造ロットごとに抜き取り検査で品質確認を行う。⑧自動で包装されたコーヒーは箱詰めも自動。最後に重さや外装を3人の検査員が確認している



健康と幸せをお届けしたいと語る社長の齋藤修さんと

寺田塚本地区に用地を取得した。現在、商品開発にも積極的で、厄介者の海藻のアカモクを使ったインスタントみそ汁を、京都府漁業協同組合と共同開発し、売れ行きも順調だとか。

お客様の健康と幸せを第一に考え、自社商品でそれを実現する実行力に、ますますの期待が寄せられている。

立地企業への手厚いサポート

京都府の優遇制度

企業立地補助金 (京都産業立地戦略 21 特別対策事業費補助金)

事業所設置促進補助金

補助率等 **投下固定資産額等 × 10%** (注) 土地取得費は補助対象外です。

交付限度額	府内常用雇用者数 ^{※1}	限度額 ^{※2}		
	5~9人の場合	0.5億円	50~99人の場合	2億円
	10~19人の場合	1億円	100~299人の場合	3億円
	20~49人の場合	1.5億円	300~499人の場合	6億円
			500人以上の場合	8億円

※1 府内常用雇用者とは、府内に住所を有し、かつ雇用保険の被保険者となっている常用雇用者をいいます。また、府内常用雇用者のうち府内他施設からの異動者を除いた者を新規府内常用雇用者といいます。
 ※2 大規模投資や、円高時の輸出関連産業については、別途、特別限度額が適用されます。(事業所設置補助金のもの)

府内常用雇用促進補助金

補助率等 **新規府内常用雇用者数 × 右記単価**

交付限度額 **8億円**

障がい者 50万円 / 人
 正規雇用者 40万円 / 人
 その他 10万円 / 人

平成34年3月31日までに補助対象事業所としての指定を受けたもの

補助対象業種	補助対象要件		
	用地等面積	投下固定資産額等 (土地取得費除く)	府内常用雇用者数
製造業等 ※製造業等には製造業類似事業(植物工場等)も含む。	工場 種まき型支援 京都の特色を活かした企業 の立地にあつては1,000㎡	3,000㎡ かつ 3億円 かつ 5人 (例)・府内産の農産物を利用した食品製造 ・府内の大学との研究成果を活用した製品製造など	3,000㎡ かつ 3億円 かつ 5人
本社			(1,000㎡ 又は 1億円) かつ 5人
自然科学研究所			(1,000㎡ 又は 1億円) かつ 5人
情報関連産業 (コールセンターは除く)			(1,000㎡ 又は 5,000万円) かつ 5人

(注) 京都府内で事業所を移転・集約する場合は、別途要件があります。

→ 既存敷地内での増設の場合は、さらに下記のいずれかの要件を満たす必要があります。

現在の工場等が ①敷地面積30,000㎡以上 ②従業員200人以上 ③製造品出荷額50億円以上
 京都府内本社企業の場合 ④直近決算売上高100億円以上

低利融資制度

(取扱金融機関) 京都銀行、京都信用金庫、京都中央信用金庫、京都北部信用金庫、商工組合中央金庫

対象 「京都産業立地戦略 21 特別対策事業費補助金」の対象となる工場等の新設、増設

特別金利 **年1.2%**

(金融情勢により変更する場合あり)
 府内常用雇用者総数が増加しない場合は1.7%
 (当初10年間固定、11年目以降は取扱金融機関が定める所定金利)

融資利率

資金使途

・工場等の新設、増設に必要な設備資金 (土地、建物、機械、設備等の取得資金)

・操業に必要な運転資金

融資限度額

所要資金の90%以内で20億円以内 (うち運転資金1億円以内)

融資期間

・設備資金 20年以内 (据置期間3年以内)
 ・運転資金 7年以内 (据置期間1年以内)

※特別金利は補助金要件のほか、府内事業所の府内常用雇用者総数が増加する場合の設備融資に適用されます。
 ○ご利用にあつては取扱金融機関の審査があり、希望に添えない場合があります。

不動産取得税の軽減

ものづくり産業等 集積促進税制

不動産取得税を最大1/2軽減します。

対象地域

ものづくり産業等 集積促進地域^{※1}

対象業種

製造業・ソフトウェア業・情報処理サービス業

軽減内容

不動産取得税を最大1/2軽減 (不均一課税)^{※2}

平成34年3月31日までに土地又は家屋を取得したもの

対象施設	要件	
	設備取得額 (土地を除く)	府内常用雇用者数
工場	2,700万円超	5人以上 (対象企業の府内事業所の府内常用雇用者総数が増加すること)
研究所・開発拠点	5,000万円超	

※1 ものづくり産業の集積の促進を図る必要があると認められる地域で、市町村長の申出に基づき、知事が指定した地域をいいます。※2 土地及び建物を取得した者が、直接自らのものづくりの用に供する場合に対象となり、営業部門や本社部門は軽減対象外です。
 ○過去に追徴課税等を受けている企業は利用できない場合がありますので、必ずお問い合わせください。

城陽市の優遇制度

城陽市企業立地促進条例

※ただし、京都産業立地戦略 21 特別対策事業費補助金の対象は除く。

措置	内容	対象地域及び対象者	対象要件
事業場等設置助成金	○投下固定資産額(土地取得を除く)の100分の10以内の額 ○限度額: 3,000万円 (※情報関連産業、自然科学研究所及び製造業に係る事業場等以外は、1,000万円)	市内の都市計画法上の準工業地域、工業地域又は工業専用地域及び市長が指定する地域内に事業場等を移転、新・増設する企業	○情報関連産業、自然科学研究所の本店及び事業場、製造業に係る本店 →敷地面積500㎡以上又は投下固定資産額等5,000万円以上かつ地元新規雇用者数1人以上
操業支援助成金	○固定資産税相当額(土地分除く)に次の率を乗じて得た額: (第1年度)100分の75 (第2年度)100分の50 (第3年度)100分の25 ○3年間の交付額の上限: 5,000万円	※平成34年3月31日までに指定申請して助成対象企業の指定を受けた企業の内、指定を受けた日の属する年度から4年度以内に事業場等の操業を開始する企業	○製造業に係る事業場及びその他の産業で、市長が特に認める産業の本店及び事業場 →敷地面積500㎡以上かつ投下固定資産額等1億円以上又は地元新規雇用者数1人以上
雇用創出助成金	○操業開始日の属する年度の翌年度以降4年間に1年以上継続して新たに雇用した城陽市在住従業員数に30万円を乗じて得た額 ○4年間の交付合計額の上限: 3,000万円		

最後に、各企業の代表者様のご協力に感謝するとともに、城陽を盛り上げるため、今後とも本市の産業振興施策への御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

この第3号では、企業集積が進む久世荒内・寺田塚本地区周辺や京都山城白坂テクノパークに立地するものづくり企業を紹介しております。この「ジョーカン」を通じて、市民の皆さまに加え、これからの未来を担う大学・高校等に通う学生の皆様には、是非とも城陽の魅力ある企業を知っていただきたく考えています。

昨年「ジョーカン」第2号を発売してから、本市では、新名神高速道路「城陽」八幡京田辺間の供用開始、東部丘陵地での城陽スマートインターチェンジの連結許可、京都府内初となるアウトレットモール設置前進などの大きな変化がありました。



城陽市長 奥田敏晴